



The moment of mjuk!

—あなたが輝く時間を、mjukと呼びます—

「家族」にほっとしながら、
子どもは大きくなっていくんだね。

階段を上ったところに、
ファミリールームがある。

斜天井の、ちよつと隠れ家のような空間だ。
趣味のコーナーにと

当初は大人っぽくしつらえていたが
気が付くと、ひとつ、ふたつ…

日増しに娘のものが増えていく。
時に友だちを招き、時に宿題をし、

「家族」の気配がするその空間を、
彼女は自分のペースで楽しんでいる。

昔、私にもそういう時期があったつけ。

邪魔されたくない、でも一人ぼっちにはなりたくない。

一人でも大丈夫、でも誰かの帰りを待っている…

いつか巣立つその日まで

家族との距離を上手にコントロールしながら
子どもは大人になっていく。

安心して自分らしくなれる場所。

ここで私たちはふんわりと

そしてしっかりと、つながっている。

